

21世紀社会が求める人材と 成蹊教育のこれから

昨年、創立100周年を迎えた成蹊学園。小学校から大学・大学院までをワンキャンパスに擁する総合学園で、一貫教育体制のもと、「自ら課題を発見し、解決できる人材の育成」を中期重点目標として掲げ、さらなる教育の質の向上を目指し、21世紀社会が求める人材像や教育のあり方などを追求するため様々な取り組みを進めている。その内容を「成蹊教育、第二世紀へのミッション」と題して今後シリーズで掲載する。今回はその第一弾として、同学園のトップ、キーパーソンによる座談会の内容を紹介する。

グローバルな世界を生きる

福島 21世紀社会は、これまで以上に競争の激しいグローバル社会になると思います。日本が置かれている現状や、今後求められる人材像について、どのようにお考えですか。

黒川 グローバルな社会では、多様性・異質性・大きな価値と可能性を持ちます。日本では、まず女性が活躍できる場や機会を増やすことが大切です。昨年の世界経済フォーラムで公表された男女平等度ランキングでは、日本は135カ国中101位でした。女性を含めた多様性を活用しなければ、これらの成長はありません。教育においては、世界の多様性を最大限発揮して新たな価値を生み出し、社会に対する自己の責任を果たしていく必要があります。これ



成蹊学園学長

橋本 竹夫氏

からの人材育成では、「自らその責を果たす覚悟を一人ひとりに持たせることが教育の重要な役割だ」と思います。

橋本 英語を話せなくても暮らしている、海外のことを強く意識しなくてもやっていける日本にいて、グローバルに活躍できる人材の育成は容易ではありません。成蹊大学は現在、世界の21大学と協定留学制度を結び、長期、中期、短期の留学生派遣を実施しています。これに加えて来年度からは、1年次の早い段階からサマースクールとして100人規模で豪への短期留学派遣を計画しており、今年度は約30人の学生を派遣する予定です。その一方で、海外からの留学生を増やす取り組みも重要です。外国人と一緒に学校生活を送ることは、

求められる人材育てる方法

福島 これからの人材育成、教育のあり方について、どのようにお考えですか。

橋本 本学園では、本年4月から6年間を達成期間とする中期重点目標を策定しました。目指すところは「自ら課題を発見し、解決できる人材の育成」です。

この目標を達成するためには、確かな基礎学力と豊かな教養、すなわちリベラルアーツの修得が欠かせません。本を読む力、文章を書く力、数理に強い力を醸成したうえで、修得した基礎学力を応用・活用する力を身に付けること。自分の考えを人に伝えられる情報発信力も学ぶ

成蹊教育
第二世紀へのミッション

建学の精神に基づく中期計画始動 “教養ある豊かな人間性”育てる教育 橋本氏

キャスター・エッセイスト
司会：福島 敦子氏

必要があります。基礎学力を身に付け、その利用法を学んだら、現実の課題解決を考えるところまで踏み込んで、実践力を鍛える必要があります。4年次のゼミや卒業研究が仕上げとして重要です。

黒川 デジタル技術を活用することも大切です。例えば、主要な米国の大学が参加している「MOOC（ムーック）」は画期的な仕組みで、スタンフォードやMIT、ハーバードなどの授業を誰でも無料でオンラインで受けられます。世界

成蹊学園ならではの価値

福島 成蹊学園は昨年創立100周年を迎え、本年から新たな世紀に向けてスタートを切りました。成蹊学園のビジョンやコアバリューを教えてください。

橋本 成蹊学園は「教養ある豊かな人間性」で、時代をひらくというタグラインを掲げ、中期重点目標を達成するための中期重点施策として、①グローバル化の推進②教育・研究の質の向上③組織・経営基盤の強化④産業界・地域との連携――を4つの柱に取り組んでいます。

基礎学力を身に付け、その利用法を知り、実際に課題を解決していく教育サイクルを考えると、本学園には、小学校から大学・大学院までがワンキャンパスに存在し、そのステップを自然と身に付けられる利点があります。この一貫教育の有用性を高めていきたい。例えば、小学校の英語クラスのティーンエイジアシスタントに成蹊大学生を採用したり、小中学生の課外活動を大学生が指導したりするなど、ワンキャンパスならではの取り組みを推進していきます。

黒川 上級生が下級生を教えるのは素晴らしいことです。下級生にとって上級生が身近な目標になるからです。ワンキャンパスであることは、成蹊学園のアドバンテージだと思います。

私は中学・高校と成蹊学園で学

中から何千、何万人が参加している授業もあります。大学の授業以外にムーックを利用すれば、世界での自分の実力が分かるし、視野も広がります。自分が本場にやりたいことも見つかるかもしれません。

橋本 成蹊学園では歴史的に、関係の深い三菱グループを核とする企業の協力を得て、昨年度から産学連携による教育にも力を入れています。例えば「丸の内ビジネス研修」は、まず大学内での準備研修を受講し、その後、企業の担当者から交えた丸の内での研修を経たうえで1〜2週間の就業体験を行い、全研修終了後に成果をプレゼンテーションするというプログラムです。成蹊大学独自の取り組みとして、今後規模を拡大していきたいと考えています。